

## 前回協議会(R5.7.31)における意見概要と対応状況

意 見 概 要	対 応 状 況
<p><u>1 名護屋城跡の樹木伐採について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>木と森ばかりで名護屋城の石垣が見えない。地域の人たちがアイデンティティを持つような、ここが名護屋城だとわかるような石垣の見せ方が重要である。歴史的な価値がない自然林・雑木については、伐採等して、石垣を見せてほしい。</li> </ul>	<p><u>1 名護屋城跡の樹木伐採について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保存活用計画における役割分担では、県は遺跡の保存整備、管理団体である唐津市は、その維持管理を行うこととなっています。</li> <li>また、県市が連携して取り組む「はじまりの名護屋城。」プロジェクトでも、城跡・陣跡の環境改善や磨き上げが重要と考え、眺望の問題にも適切に対処したいと考えています。</li> <li>例えば、令和4年度には、県では、草庵茶室跡（山里丸）の修景整備として、周辺の樹木伐採を行い、唐津市では、徳川家康陣跡から城跡への眺望を阻害する樹木の伐採を行いました。</li> <li>また、令和5年度には、名護屋城大茶会の開催にあわせて、唐津市とともに東出丸周辺の樹木の伐採をしました。</li> <li>対象地が民地である場合などには、より慎重な対応が必要ですので、地元や地権者など、関係者と調整しながら、これまで以上に、県・市連携して取り組みたいと考えています。</li> </ul>
<p><u>2 案内看板の設置について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鎮西町に来た人たちが「ちょっと博物館に寄ってみよう」と思いつくような、契機となる看板などが足らなすぎる。もっと看板を設置するべき。</li> </ul>	<p><u>2 案内看板の設置について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鎮西町や呼子町を訪れた方々が、城跡や博物館まで足を運ぶきっかけとなるよう、令和5年度には、名護屋城跡・陣跡周遊サイン整備事業（文化課）の一環として、同エリアに向かう主要道路沿いに、名護屋城跡へ誘導する歓迎塔（計8基）を新たに設置しました。</li> <li>これらの歓迎塔のほか、城跡や有名武将の陣跡には、ゲーム「信長の野望」のキャラクターを起用した案内看板を設置し、県が作成したスマホアプリ「SAGA-TOCO」と連携したスタンプラリーを運用して、城跡・陣跡の周遊促進を図りつつ、その景品となる武将カードの受け渡しを当館で行うことで、来館・展示見学のきっかけ作りにも取り組んでいます。</li> <li>なお、令和6年の夏季期間については、             <ul style="list-style-type: none"> <li>*唐津市主催のスタンプラリー 「ルートグランブルー」（市内沿岸部）</li> <li>*県観光連盟・トヨタ・長崎の共同事業 「ドライブスタンプラリー」（県内観光地）</li> </ul>             等の企画にも参加しているところです。           </li> </ul>

### 3 「VR 名護屋城」アプリの活用について

- 博物館が取り組んでいる「VR 名護屋城」については、博物館に来ないと利用できないのではなくて、旅館やホテル等から旅行者に勧めてもらい、「じゃ行ってみよう」となるような活用が必要ではないか。

### 4 展示の充実強化について

- 博物館の業務として、保存は使命であると思うが、桃山文化の花開くスタートとして、名護屋城が大きく貢献したことを情報共有することが重要である。
- 名護屋は、すばらしいところだから、町全体での集客ができるように、もっと本庁が博物館行政を後押しして、展示に力を入れてほしい。 【学芸課、文化課】

### 3 「VR 名護屋城」アプリの活用について

- 「VR名護屋城アプリ」については、当館で無料貸し出ししているタブレット端末のほか、個人が所有するスマートフォンに無料アプリをダウンロードすることで利用ができるようになっていました。
- 従来のアプリでは、まず、博物館にてアプリを起動し、チェックインをしてからでないと、現地（城跡）でVR映像を楽しめない仕様となっていました。1月末にアプリの改修を行い、まっすぐ城跡に行っても、現地で起動できるようになりました。2月以降のダウンロード件数も前年度比4倍となっており、好評いただいていると受け止めています。
- また、旅館やホテル等でも、このアプリを薦めていただき、観光客等に、さらに楽しく城跡を回っていただけるよう、アプリをダウンロードするためのQRコードや、利用方法の説明、城跡等でのVR映像を見ることが出来るポイント（地点）を表示したマップを掲載したチラシを作成し、近隣の旅館等に、年間スケジュール等の資料とあわせて、送付をさせていただいたところです。
- チラシについては、来館者に配布することで、チラシを持って、自分のスマートフォンで城跡を回っていただくことができ、好評を得ています。

### 4 展示の充実強化について

- 当館としても、当時の名護屋城の文化や繁栄についての情報発信は、大変重要と認識しています。
- 近年は、お城ブームや大河ドラマの影響もあって、テレビ番組や雑誌の取材も多く、名護屋城、そして佐賀・唐津に目を向けていただける機会も、確実に増えていると考えています。
- 当館の展示については、昨年度末には、豊臣秀吉が使った茶室の遺構としては唯一の事例である草庵茶室の復元を行い、秀吉の2つの茶室が揃ったことで、ここにしかない価値をわかりやすく伝える展示空間を作ることができました。

<p>5 全県的な名護屋城のPRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>名護屋城については、唐津の方は知っていても、佐賀市や鳥栖市にお住まいの方へのアピール度は低いように思う。</li> <li>まずは、全県的にアピールできるようにお願いしたい。 【学芸課】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県文化課では、「はじまりの名護屋城。」プロジェクトの一環として、この草庵茶室の復元のほか、常設展示の一部リニューアルについても、その予算獲得から事業内容まで、博物館と連携して取り組んでいます。</li> <li>また、「信長の野望」とのコラボ企画や、名護屋大茶会の開催なども含め、県文化課と博物館が連携して、引き続き、更なる誘客に取り組んでいきます。</li> </ul> <p>5 全県的な名護屋城のPRについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当館には、筑後方面からの来場も一定数ある等、佐賀市や県東部からの日帰り旅行先としても、十分に選択いただける範囲にあり、こういった地域の皆様にも、名護屋城に関心をもっていただける機会は必要であると受け止めています。</li> <li>現在、佐賀新聞では、著名な歴史研究者の平山優氏が名護屋城をメインテーマに取り上げて定期的に紹介いただいているほか、今年12月からは、佐賀新聞社主催の特別展「桃山三都」が県立美術館で開催され、名護屋城にスポットが当てられます。展覧会会期中は、「黄金の茶室」も貸し出す予定となっています。</li> <li>当館としても、県内の唐津東松浦地区以外の皆様にも、名護屋城に行ってみようと思っただけのよう取り組んでいく所存です。</li> </ul> <p>○「佐賀新聞創刊140周年記念特別展 桃山三都 - 京・大坂・名護屋 - 」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会場：佐賀県立美術館</li> <li>開催期間：R6.12.6 ～ R7.1.29</li> <li>「黄金の茶室」の館外貸出 R6.12.2 貸出 ～ R7.2 月返却</li> </ul>
--	---